

道徳・ 学級経営

時短アイテムを使って 子どもの心を落ち着かせる

1. 子どもの怒りを早く収めたいとき

短い時間で、子どもの怒りを収めたいときがある。例えば、次の3つだ。

- ①給食の時間(早く落ち着かせて、給食を食べてほしいから)。
- ②教師視線で「それくらいのことでそんなに怒らなくても……」と思うとき。
- ③参観授業や研究授業、放課後の会議などが始まる直前に起こるけんかを収めたいとき。

上のようなときに、短い時間で子どもの怒りを収めるのに効果的だったアイテムが「カオマル」だ。



(写真/アッシュコンセプト)

▲アマゾンなどで、「カオマル」と検索すると、1個2,700円程度で購入できる。

カオマルは、ストレス解消アイテムである。効果が絶大だったので教室用だけでなく、職員室用にも追加注文した(放課後、運動場遊びで子どものけんかなどのトラブルが起きた場合に備えて)。

2. カオマルの使い方

子ども同士のけんかの対応で大切なのは、まず子どもを落ち着かせることだ。子どもが興奮しているは適切に事情を聞けないからだ。カオマルを使って子どもに対応すると、子どもは怒りを収めるだけでなく、笑顔になる。

実際に筆者が試して効果があった使い方を以下に紹介する。

- ①保管場所は、教師の机の中にする(やんちゃな子どもが遊び道具として勝手に使わないように)。
- ②けんかなどで子どもが興奮したら、教師が「カオマル」を握り、おもしろい表情を作りながら子どもの話を聞く(怒りで興奮状態の子どもは、「カオマル」の次々と変わるおもしろい表情を見ている。教師の不適切な怒りの予防にもなる)。
- ③怒りで興奮している子どもに、「どれくらい嫌だった? 嫌な気持ちの強さで握ってみて」と言い、「カオマル」を握らせる(「これくらい?」「それともこれくらい?」)と言いながら、教師が握ってみせてもおもしろい)。
- ④子どもの興奮が収まったところで、トラブルの原因や状況を確認したり、解決に向けた話し合いをしたりする。



◀アンガーマネジメントの経験をもとにしながら、怒られてばかりの子どもたちが大人に「自分の取り扱い方」を突きつける絵本、拙著『ぼく、わたしのトリセツ』(アメージング出版)が好評発売中です。是非ご一読ください。